

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)Tステージ浄水Ⅲ	階数	地上20F
建設地	愛知県豊田市豊田浄水特定土地区	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	332 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年1月 予定	評価の実施日	2014年12月10日
敷地面積	2,231.00 m ²	作成者	岡田 ヨシカズ
建築面積	523.84 m ²	確認日	2014年12月15日
延床面積	7,811.65 m ²	確認者	岡田 ヨシカズ

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>94.8 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	94.8 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	94.8 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目			評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 騒音										
1	室内騒音レベル				3.0	0.15	3.1	1.00	3.0	
2	騒音騒音対策				3.0	0.50	3.0	0.50	3.3	
1.2 遮音										
1	開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30		
2	界壁遮音性能				3.0	-	3.0	0.30		
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			Lr-45フローリング材の採用	3.0	-	4.0	0.20		
4	界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20		
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1	室温				1.0	0.35	3.0	1.00	2.7	
2	負荷変動・追従制御性				1.0	1.00	3.0	1.00		
3	外皮性能				-	-	-	-		
4	ゾーン別制御性				1.0	1.00	3.0	1.00		
5	湿度・湿度制御				-	-	-	-		
6	個別制御				-	-	-	-		
7	換気・空調に対する配慮				-	-	-	-		
8	監視システム				-	-	-	-		
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1	屋光率			開口の1/2以上のサッシュを設けている	2.7	0.25	3.5	1.00	3.3	
2	方位別開口				3.0	0.30	4.0	0.50		
3	屋光利用設備				-	-	5.0	0.50		
3.2 グレア対策										
1	照明器具のグレア				3.0	1.00	3.0	0.20		
2	屋光制御				2.0	0.30	3.0	0.50		
3	視覚的対策				2.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気環境										
4.1 発生源対策										
1	化学汚染物質			空気環境3等級	4.2	0.25	4.2	1.00	4.2	
2	揮発性有機化合物				5.0	0.60	5.0	0.63		
3	放射性物質				5.0	1.00	5.0	1.00		
4	ヒートショック対策				-	-	-	-		
4.2 換気										
1	換気量				3.0	0.40	3.0	0.38		
2	自然換気性能				3.0	0.50	3.0	0.33		
3	取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4	給気対策				-	-	-	-		
4.3 運用管理										
1	CO ₂ の監視				3.0	-	-	-		
2	喫煙の制御				3.0	-	-	-		
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1	広さ・収納性				3.0	0.40	3.6	1.00	3.5	
2	高度情報通信設備対応			光ケーブル用空配管、住戸内実装で100Mbit	3.0	0.40	4.0	0.60		
3	バリアフリー計画	●			3.0	1.00	-	1.00		
1.2 心理性・快適性										
1	広さ感・景観				3.0	0.30	3.0	0.40		
2	リフレッシュスペース				3.0	-	3.0	0.50		
3	内装計画				3.0	1.00	3.0	0.50		
1.3 維持管理										
1	維持管理に配慮した設計				3.0	0.30	-	-		
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
3	職業訓練業務				3.0	-	-	-		
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震										
1	耐震性				3.5	0.31	-	-	3.3	
2	免震・制振性能			免震工法	3.4	0.48	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数										
1	躯体材料の耐用年数			品確法 劣化等級3	3.0	0.80	-	-		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	②			5.0	0.23	-	-		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔				2.0	0.09	-	-		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔			給水:SGP-VA 給湯:PE 排水:耐火二層管	3.0	0.08	-	-		
6	主要設備機器の更新必要間隔				4.0	0.15	-	-		
					3.0	0.23	-	-		

2.4 信頼性				3.0	0.19			
1 空調・換気設備				3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3 電気設備				3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5 通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.0	0.29	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり								
1 階高のゆとり			基準階階高2960			3.2	0.50	
2 空間の形状・自由さ						4.0	0.60	
3.2 荷重のゆとり						2.0	0.40	
3.3 設備の更新性						3.0	0.50	
1 空調配管の更新性				3.0	1.00			
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			
3 電気配線の更新性				3.0	0.17			
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			
5 設備機器の更新性				3.0	0.11			
6 バックアップスペース				3.0	0.22			
6 バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出	●	③		2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.5
1 建築物の熱負荷抑制				3.0	0.40			3.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20			3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			給湯器エコジョーズ	4.3	0.40			4.3
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				#VALUE!				
集合住宅の評価				4.3				
4 効率的運用								
4.1 モニタリング								
4.2 運用管理体制								
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護				3.4	0.15			3.4
1.1 節水			超節水型便器の採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	1.00			
2 雑排水等利用システム導入の有無								
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.63			2.7
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②		1.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●		躯体+木下地+仕上材	4.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			
1 消火剤				-	-			
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3 冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		①	水セメント比50%以下、鉄筋かぶりの確保	4.1	0.33			4.1
2 地域環境への配慮				3.1	0.33			3.1
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25			
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 交通負荷抑制	●		適切な駐車台数の確保	5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音	●			3.0	1.00			
2 振動	●			-	-			
3 悪臭				-	-			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				3.0	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制								
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			
2 眩光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

重点項目スコアシート
 (仮称)Tステージ浄水Ⅲ

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-あいち(2011年度版)

■評価ソフト:

CASBEE-NCb_2011v.1.3_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 十字路の一区画・矩形の敷地に高層棟を45度に配置し、建物のボリューム感を押さえる計画とした。交差点に面して空地を確保、緑化計画を施して景観に配慮した。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 遮音サッシュT1+界壁200+ボイドスラブ+遮音床材などを採用して音環境の向上に努め、空気環境3等級を確保し、明るく清潔な室内環境を目指した。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 躯体劣化3等級など、建物の耐用年数の向上に努め、将来の生活様式の変化に対応できる計画とした。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 中高木を多く植樹し、地被植物とからませて、憩いの空間・道路沿いの景観を創出し生活環境に楽しい演出を加えた。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省エネ3等級の断熱仕様、エコジョーズ給湯器の採用、共用照明にはLEDを採用し環境負荷低減に努めた。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 エコ商品・リサイクル商品の利用に心がける。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 周辺環境に対し、適切な建物離隔距離をとり、環境悪化の低減を図る。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。